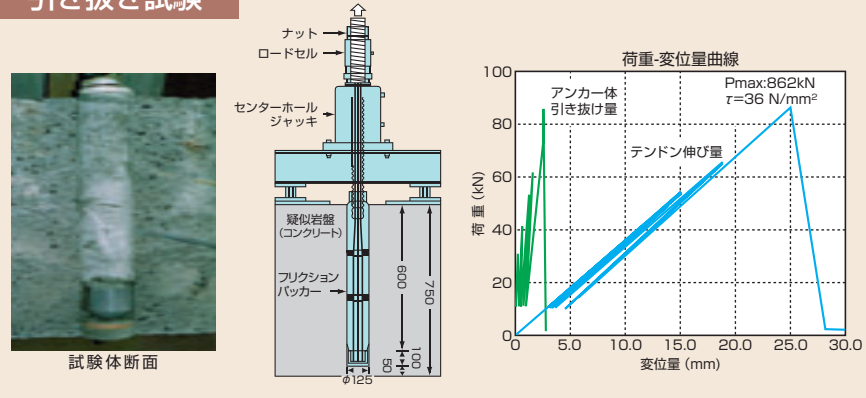


引き抜き試験



ポリプロピレン特性

各種繊維の耐薬品性

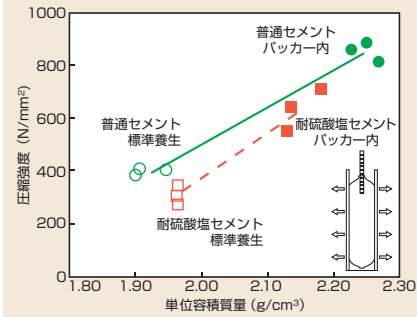
薬品	繊維	ポリプロピレン	ポリエステル	ナイロン	アクリル	ビロン	綿
硫酸		○	△	×	△	×	×
硝酸		○	○	×	×	×	○
塩酸		○	○	×	○	×	○
氷酢酸		○	○	×	○	○	○
苛性ソーダ		○	△	○	○	○	○
次亜塩素酸ソーダ		○	○	○	○	○	○
アセトン		○	○	○	○	○	○
ジメチルホルムアミド		○	×	△	×	○	○
クレゾール		○	×	×	○	○	○
エチルアルコール		○	○	○	○	○	○

○:充分耐える △:侵される ×:著しく侵される

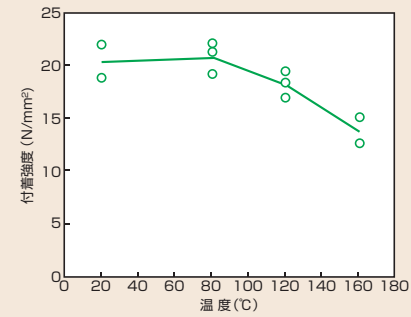
各種繊維の吸湿性 (%)

繊維	相対湿度	20%	95%
ポリプロピレン		0	0~0.1
ナイロン		1.0~1.8	10.0~12.0
ポリエステル		0.1~0.3	0.6~0.7
アクリル		0.3~0.5	1.5~3.0
綿		—	24~27

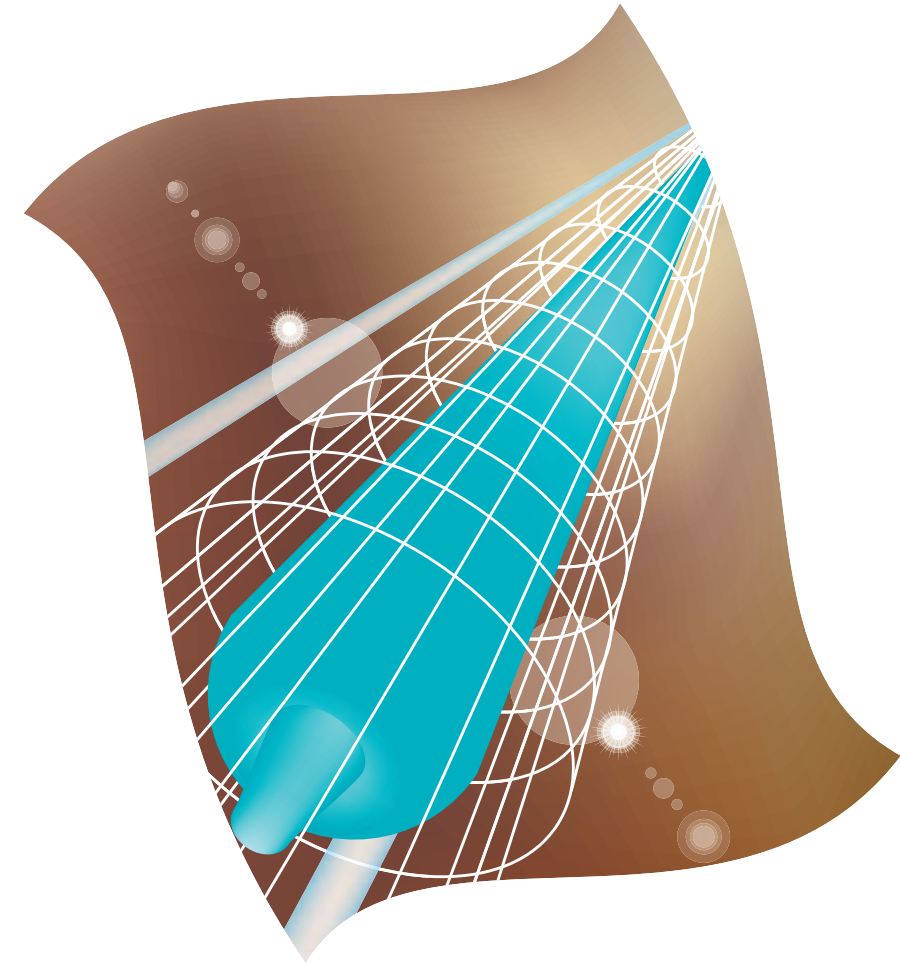
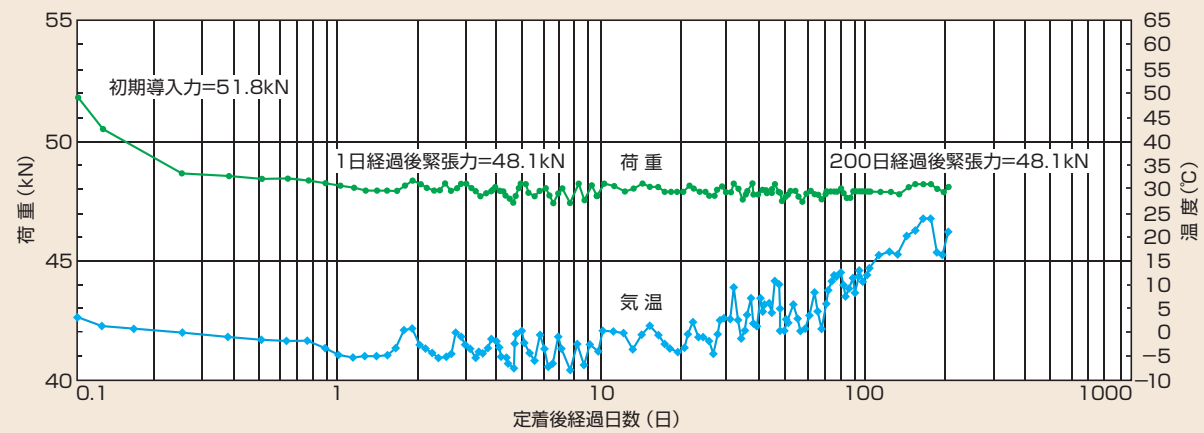
脱水効果



耐熱性



定着荷重長期測定



FRICITION
フリクションパッカー
PACKER

アンカーをサポートする

MIP 守谷鋼機株式会社

本社 〒103-0028
東京都中央区八重洲1-5-8 鳥居ビル6階
☎03-3271-9901 ☎03-3271-9902
第1工場 〒300-2661
(つくば) 茨城県つくば市上河原崎7番地
☎029-847-5488 ☎029-847-5489
第2工場 〒709-0805
(岡山) 岡山県赤松市二井87番地
☎086-955-2840 ☎086-955-2841
ホームページ <http://www.moritani-kouki.co.jp/>

FRICTION PACKER

フリクションパッカー

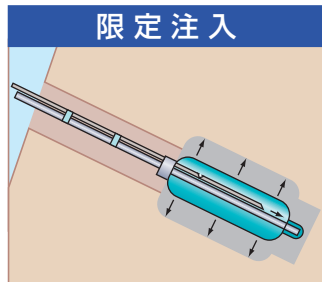
■ フリクションパッカー荷姿



- アンカー一体部を覆い、アンカー体周囲の岩盤へグラウトを漏出させた後加圧注入に移行、グラウト逸走を防ぎます。
- 強度・耐食性・耐薬品性に優れ、摩擦や摩耗に強いポリプロピレン繊維を使用しています。
- 特殊編みのパイル糸がグラウトの漏出とともにグランドの編目から押出され、目詰まりが発生、圧力注入が可能です。

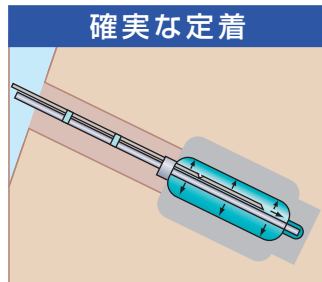
POINT

限定注入



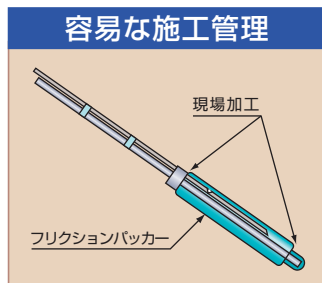
- 亀裂の多い岩盤に対応できます。
- グラウトのロスが少なく経済的です。
- 周辺地盤を汚染せず、環境に配慮することが出来ます。

確実な定着



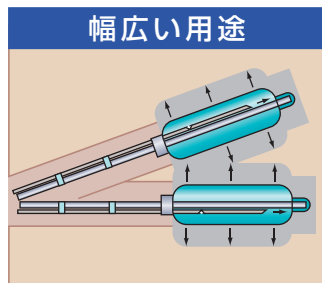
- 漏出したグラウトが付着力を確保します。
- 加圧注入で岩盤に密着します。
- 脱水効果で高品質なアンカー体を造成します。

容易な施工管理



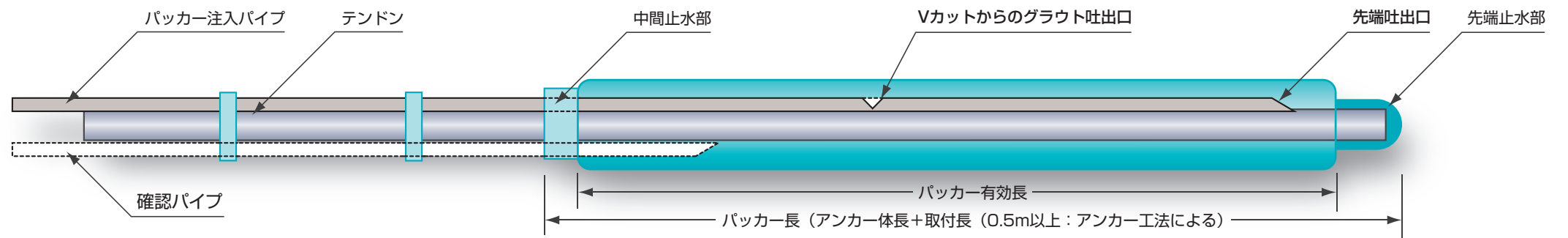
- シンプルな構造、少ない部材で組立加工が容易です。
- グラウト注入量、注入圧で施工管理を行います。

幅広い用途



- 上向き、水平アンカーにも適用が可能です。
- 各種アンカー工法に対応が可能です。

各部名称



環境に配慮亀裂の多い岩盤に確実な定着

水硬パテ (水中硬化型充填接着剤) の練り混ぜ



● 水硬パテ 練り混ぜ前



● 100g+100g / 組の主剤と硬化剤の二袋を水解紙のついたまま水に漬け混練します。



● 練り混ぜの完了
● 硬化時間は5~6時間(20℃)が必要です。

注入漏れ量・膨らみ径の測定



● パッカー内面のパイル糸がグランドの編目からグラウト漏出と共に押出され、編目を目詰まりさせます。

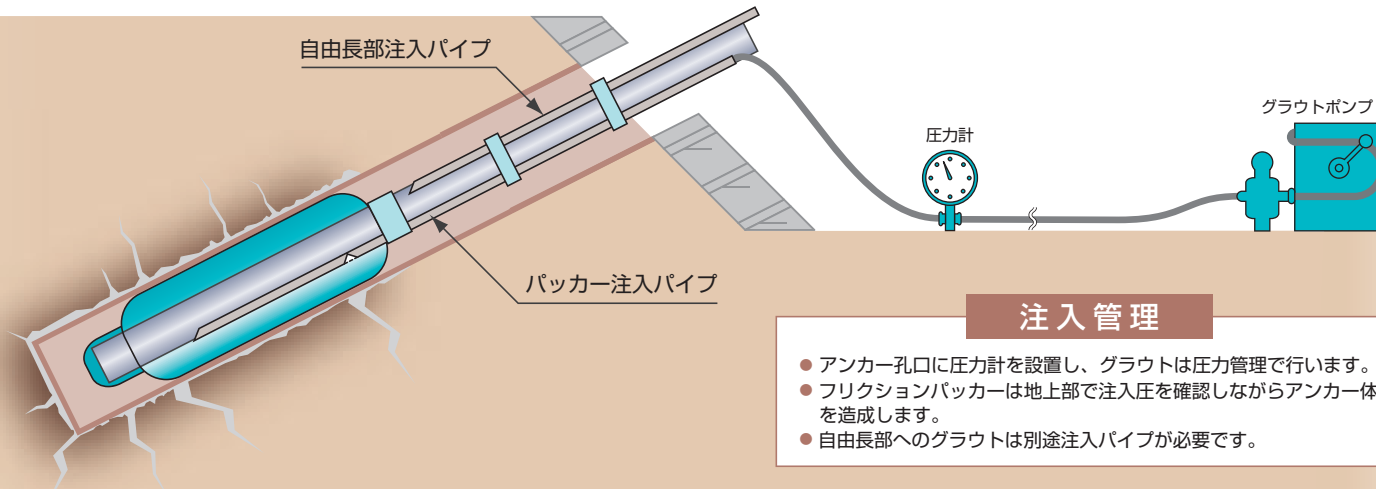
■ フリクションパッカー 仕様

形状	筒状シームレス
材料	ポリプロピレン繊維

■ フリクションパッカー 種類

型式	織り巾	膨み径	適用削孔径
FP 80	120mm	105mm	ロックボルト (自然径 74mm)
FP 100	140mm	120mm	90システム (// 89mm)
FP 125	160mm	140mm	115システム (// 102mm)
FP 150	180mm	160mm	135システム (// 115mm)
FP 175	200mm	175mm	146システム (// 127mm)
FP 200	260mm	230mm	165システム (// 166mm)

※ 膨らみ径は加圧注入0.2MPaでの参考値です。
※ 標準寸法以外の製作の可否はお問い合わせ下さい。



注入管理

- アンカー孔口に圧力計を設置し、グラウトは圧力管理で行います。
- フリクションパッカーは地上部で注入圧を確認しながらアンカー体を造成します。
- 自由長部へのグラウトは別途注入パイプが必要です。

注入方法

- 1 グラウトをパッカー内に注入。**
注入パイプは先端まで伸ばし、先端部及び中間部にVカットを入れ、グラウトは中間部からも吐出させます。
- 2 グラウト充填後の加圧注入。**
初期グラウトは吐出量20~40ℓ/minで行い、グラウト圧力が0.2~0.3MPaに達したときに減速します。残圧力が落ち着かない場合は、注入を3~5分程度停止してから再注入すると圧力が残るようになります。アンカー頭部(孔口)でのグラウト圧P=0.2~0.3MPaを標準としますが、地盤に応じて最大0.5MPaまで上げます。確認パイプをつけた場合は新鮮なグラウトが確認パイプから流出した時点で閉塞します。
- 3 注入量は膨み径容積の2~3倍程度が目安です。**
3倍を超える場合は止水部の破損が原因と推測されます。(水セメント比は50%を標準配合としています。)